

各特別区の長期財政推計 [粗い試算(その1)]
(一般財源ベース)

平成26年7月23日

大阪府・大阪市特別区設置協議会
事務局:大阪府市大都市局

【資料の目的・位置づけ】

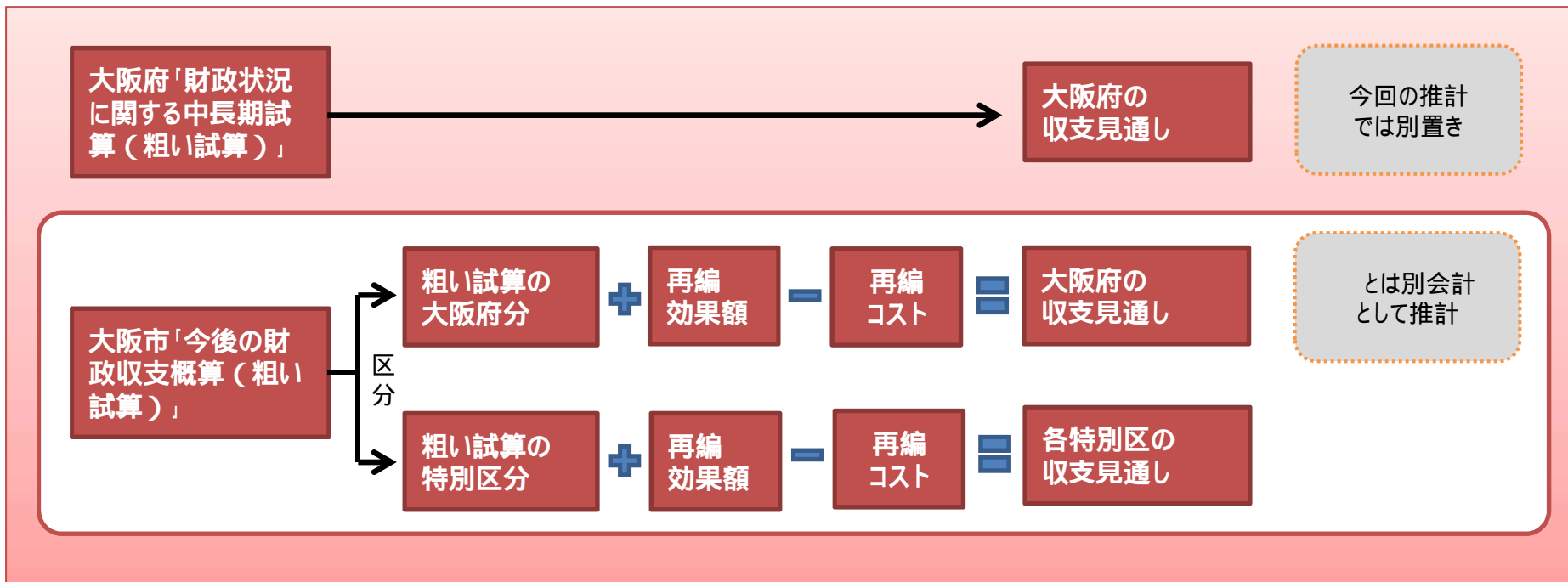
- ◆ 本資料で示した財政推計は、現時点で把握できる数値を基に一定の前提条件をおいたうえで行った極めて粗い試算であり、今後の予算編成において変動する可能性があるため、相当の幅をもって見る必要がある。

本資料は、第16回法定協議会における指摘事項や事務分担に関する国意見などを踏まえ、修正したもの

目 次

1 . 長期財政推計を行うにあたって	1
2 . 長期財政推計	
(1) 北区	6
(2) 湾岸区	10
(3) 東区	16
(4) 南区	20
(5) 中央区	24
(6) 大阪府 [参考]	29
3 . 参考資料	
(1) 推計の前提条件	32
(2) 再編効果・再編コストの内訳	35
(3) 再編効果・再編コストについて	50
A B 項目等	
職員体制の再編	
再編コスト	

長期財政推計の算定方式



この長期財政推計では、

- 大阪府の「財政状況に関する中長期試算（粗い試算）」は、範囲外とした
- 大阪市の「今後の財政収支概算（粗い試算）」（平成26年4月版）を協定書案の事務分担等に基づき、大阪府と各特別区分に分け、それぞれに再編効果・再編コストを加味し、新たな大都市制度移行後の収支見通しを作成
- 推計期間は、H29～45年度とした

再編効果額・再編コストについて

再編効果やコストを現時点で試算した額を年次ごとに区分

- ・ 再編の効果額やコストをさらに精査し、反映（「粗い試算」において既に反映されている額は重複分として控除）
- ・ 特別区にかかるシステム改修や庁舎建設等の期間は、H28～33年度で見込む
各特別区の庁舎については、北区は市役所本庁舎を改修、他の湾岸区、東区、南区、中央区は新庁舎を建設で見込む
のうち、湾岸区は新庁舎を建設せず、A T Cを賃借・改修し、活用した場合についても試算

システムの改修や庁舎建設等の期間における特別区全体のイニシャルコスト（一般財源ベース）

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
のケース	約 47 億	約 87 億	約 3 億	約 3 億	約 7 億	約 24 億
のケース	約 47 億	約 87 億	約 2 億	約 2 億	約 9 億	約 30 億

（年次割りの考え方）

システム改修 H28～29年度 庁舎改修 H31～33年度（起債対象事業は、建設事業債75%、行革推進債25%を充当）
新庁舎建設 H28～32年度（起債対象事業は、建設事業債75%、行革推進債25%を充当）
ATC改修 H31～33年度

（特別区設置日以前のイニシャルコスト [H28年度分] の財源について）

H27～28年度に出現する再編効果見込額等を活用するものと設定

特別区で収支不足が発生した場合の財源対策（例示）

ストックの活用

- ・ 土地売却
- ・ 財政調整基金（特別区分）の活用 …… 承継される財政調整基金（H28年度末予定残高 約617億円）を活用
- ・ 財政調整基金（大阪府分）の貸付 …… 承継される財政調整基金（H28年度末予定残高 約321億円）から貸付
- ・ 特別区が承継する株式などの活用 …… 例）関西電力(株) 株式（出資財産分） 19,437,763株 ・ 約97億円【簿価】

地方債の活用（行革推進債等）

大阪府からの財政措置（例 特別区のイニシャルコスト分を負担）

さらなる取組み

実際の財源対策については、各特別区の予算編成で具体化される

2 . 長期財政推計

(1) 北区

(1) 北区

財政収支推計(市「粗い試算」区分後)

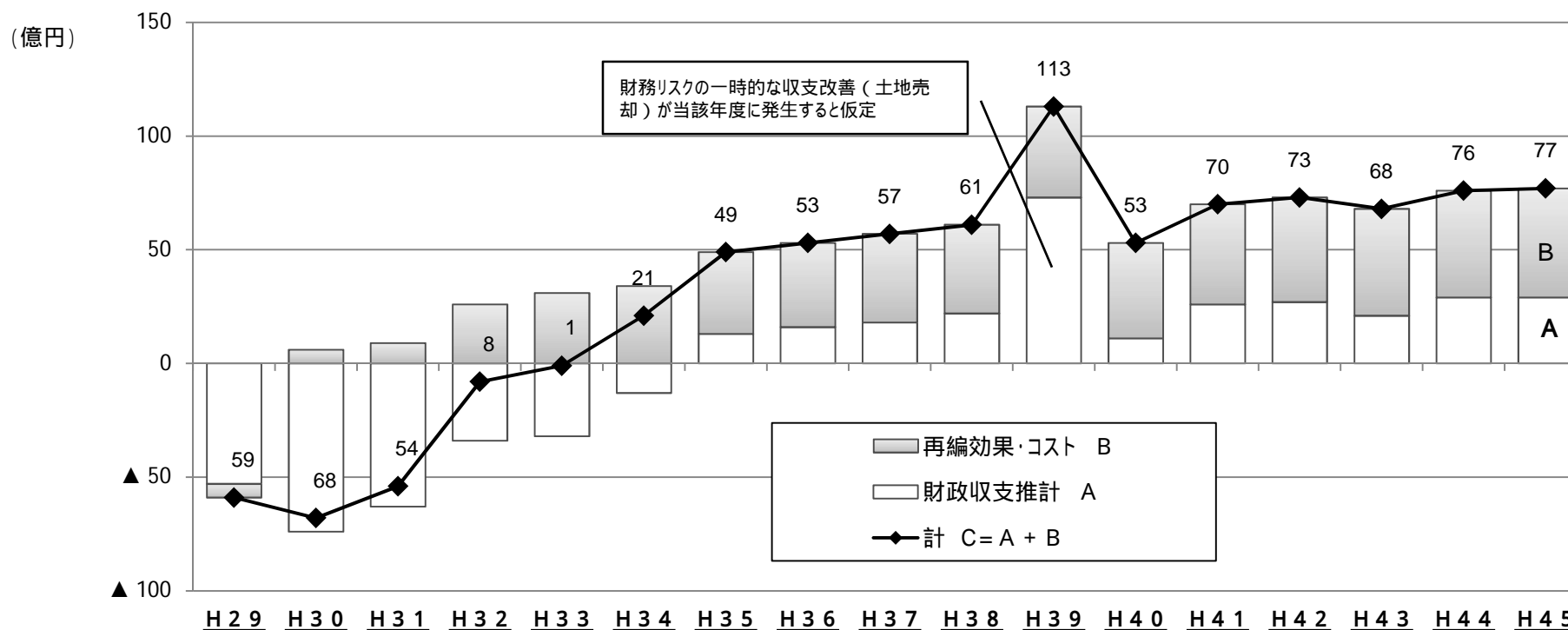
(億円)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
歳出 ア	1,429	1,457	1,452	1,431	1,438	1,427	1,410	1,407
人件費	305	305	308	304	305	305	303	303
公債費・財務リスク	348	367	356	341	343	325	305	302
その他	776	785	788	786	790	797	802	802
歳入 イ	1,376	1,383	1,389	1,397	1,406	1,414	1,423	1,423
税、臨財債、譲与税等	697	697	697	704	717	730	743	743
財政調整交付金・目的税交付金	679	686	692	693	689	684	680	680
差引 イーア A	53	74	63	34	32	13	13	16

(億円)

	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
歳出 ア	1,405	1,401	1,350	1,412	1,397	1,396	1,402	1,394	1,394
人件費	303	303	303	303	303	303	303	303	303
公債費・財務リスク	300	296	245	307	292	291	297	289	289
その他	802	802	802	802	802	802	802	802	802
歳入 イ	1,423	1,423	1,423	1,423	1,423	1,423	1,423	1,423	1,423
税、臨財債、譲与税等	743	743	743	743	743	743	743	743	743
財政調整交付金・目的税交付金	680	680	680	680	680	680	680	680	680
差引 イーア A	18	22	73	11	26	27	21	29	29

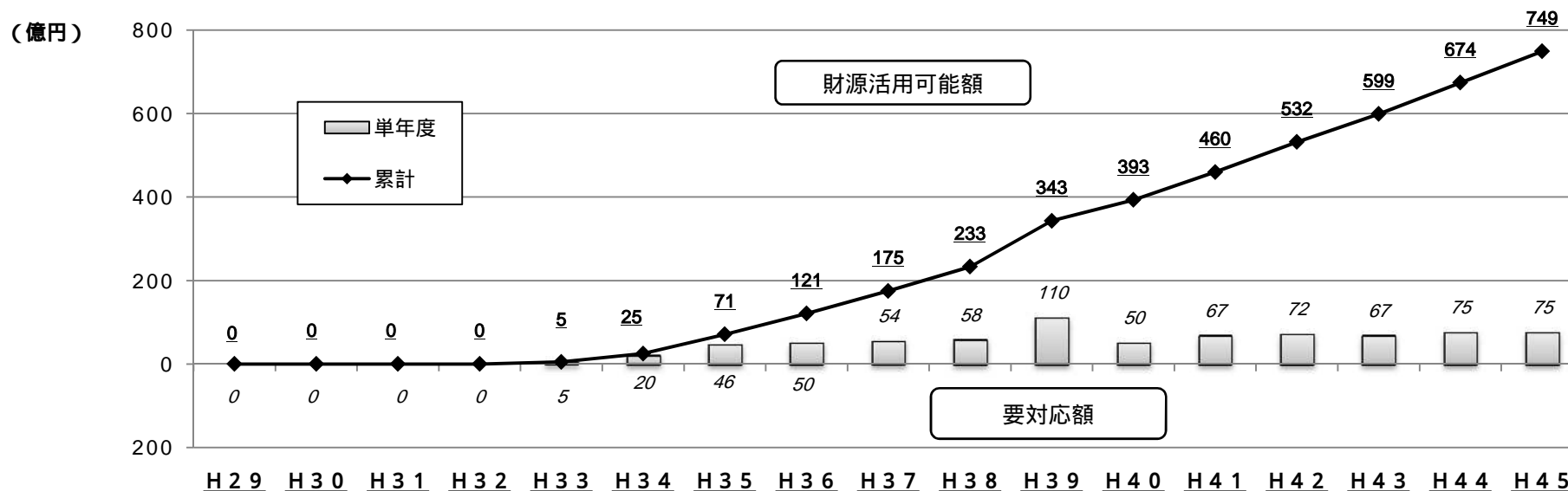
- ◆ H31年度まで約50億円を超える収支不足が続くが、H34年度には収支不足が解消
- ◆ H45年度の単年度収支では、約77億円のプラス



財政収支推計 A	53	74	63	34	32	13	13	16	18	22	73	11	26	27	21	29	29
再編効果・コスト B (その1)	6	6	9	26	31	34	36	37	39	39	40	42	44	46	47	47	48
計 C = A + B	59	68	54	8	1	21	49	53	57	61	113	53	70	73	68	76	77

財源対策後

- ◆ 収支不足に対しては、各年度とも財源対策を講じることにより対応が可能
- ◆ H33年度には財源活用可能額が発生し、徐々に拡大してH45年度には約75億円となる



	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
収支不足対応額 D	59	68	54	8	6	1	3	3	3	3	3	3	3	1	1	1	2
土地売却	33	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地方債の活用	6	6	6	7	6	1	3	3	3	3	3	3	3	1	1	1	2
区承継財調基金の活用	20	29	48	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
府承継財調基金の貸付	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
府からの財政措置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
収支合計 E = C + D	0	0	0	0	5	20	46	50	54	58	110	50	67	72	67	75	75
特別区承継財調基金 + 財源活用可能額(累計)	125	96	48	47	52	72	118	168	222	280	390	440	507	579	646	721	796

特別区に承継した財政調整基金は約145億円

関西電力(株) 株式(出資財産分) 3,887,552株・約19億円【簿価】

(2) 湾岸区

(2) 湾岸区

財政収支推計(市「粗い試算」区分後)

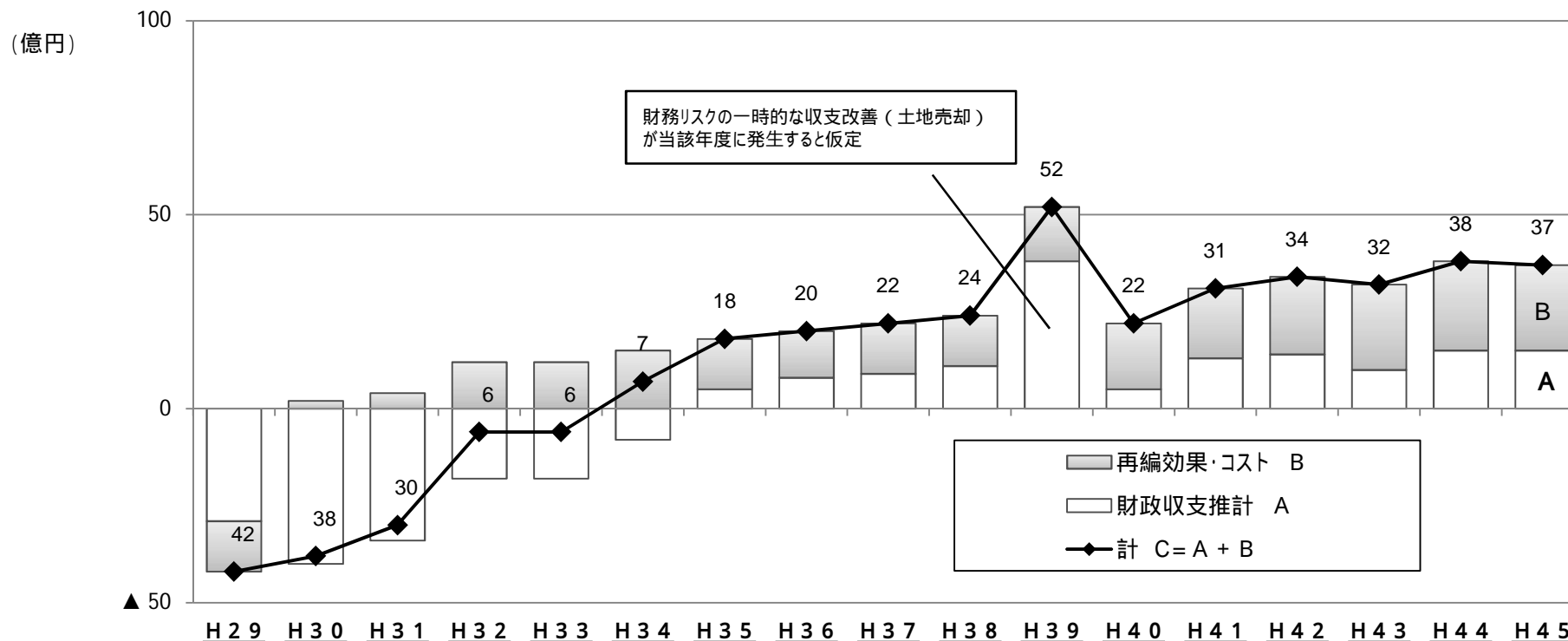
(億円)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
歳出 ア	865	881	879	867	871	866	857	854
人件費	194	194	196	193	194	194	193	193
公債費・財務リスク	190	201	195	187	187	178	167	164
その他	481	486	488	487	490	494	497	497
歳入 イ	836	841	845	849	853	858	862	862
税、臨財債、譲与税等	305	302	298	299	304	310	315	315
財政調整交付金・目的税交付金	531	539	547	550	549	548	547	547
差引 イーア A	29	40	34	18	18	8	5	8

(億円)

	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
歳出 ア	853	851	824	857	849	848	852	847	847
人件費	193	193	193	193	193	193	193	193	193
公債費・財務リスク	163	161	134	167	159	158	162	157	157
その他	497	497	497	497	497	497	497	497	497
歳入 イ	862	862	862	862	862	862	862	862	862
税、臨財債、譲与税等	315	315	315	315	315	315	315	315	315
財政調整交付金・目的税交付金	547	547	547	547	547	547	547	547	547
差引 イーア A	9	11	38	5	13	14	10	15	15

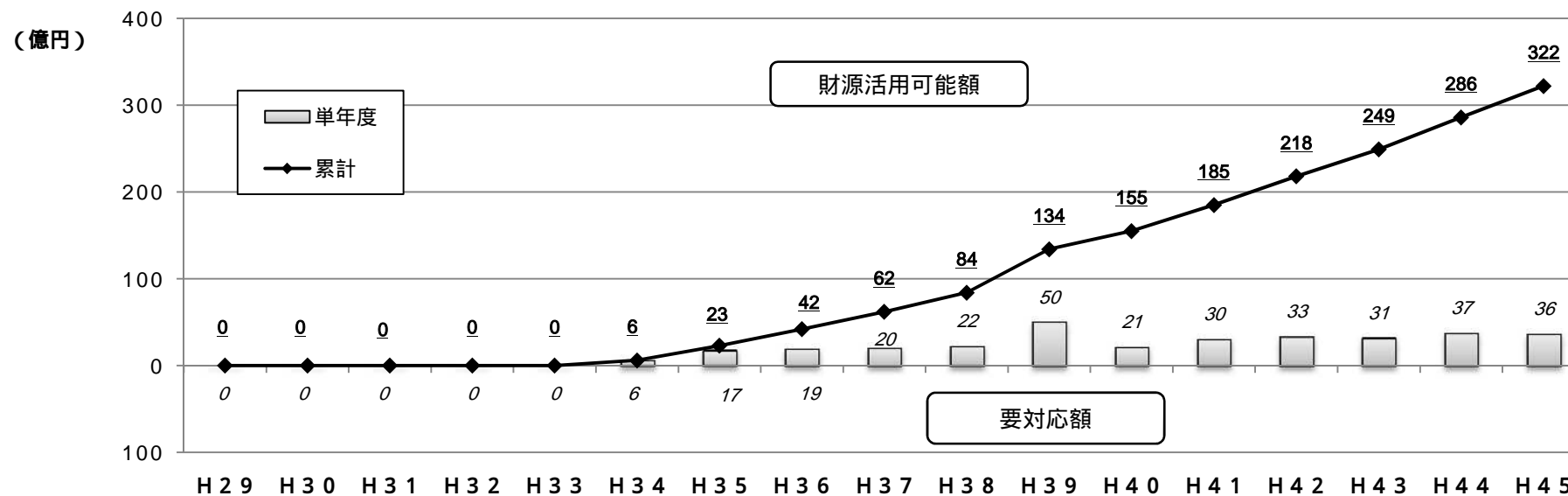
- ◆ H31年度まで約30億円を超える収支不足が続くが、H34年度には収支不足が解消
- ◆ H45年度の単年度収支では、約37億円のプラス



	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
財政収支推計 A	29	40	34	18	18	8	5	8	9	11	38	5	13	14	10	15	15
再編効果・コスト B (その1)	13	2	4	12	12	15	13	12	13	13	14	17	18	20	22	23	22
計 C = A + B	42	38	30	6	6	7	18	20	22	24	52	22	31	34	32	38	37

財源対策後

- ◆ 収支不足に対しては、各年度とも財源対策を講じることにより対応が可能
- ◆ H34年度には財源活用可能額が発生し、徐々に拡大してH45年度には約36億円となる

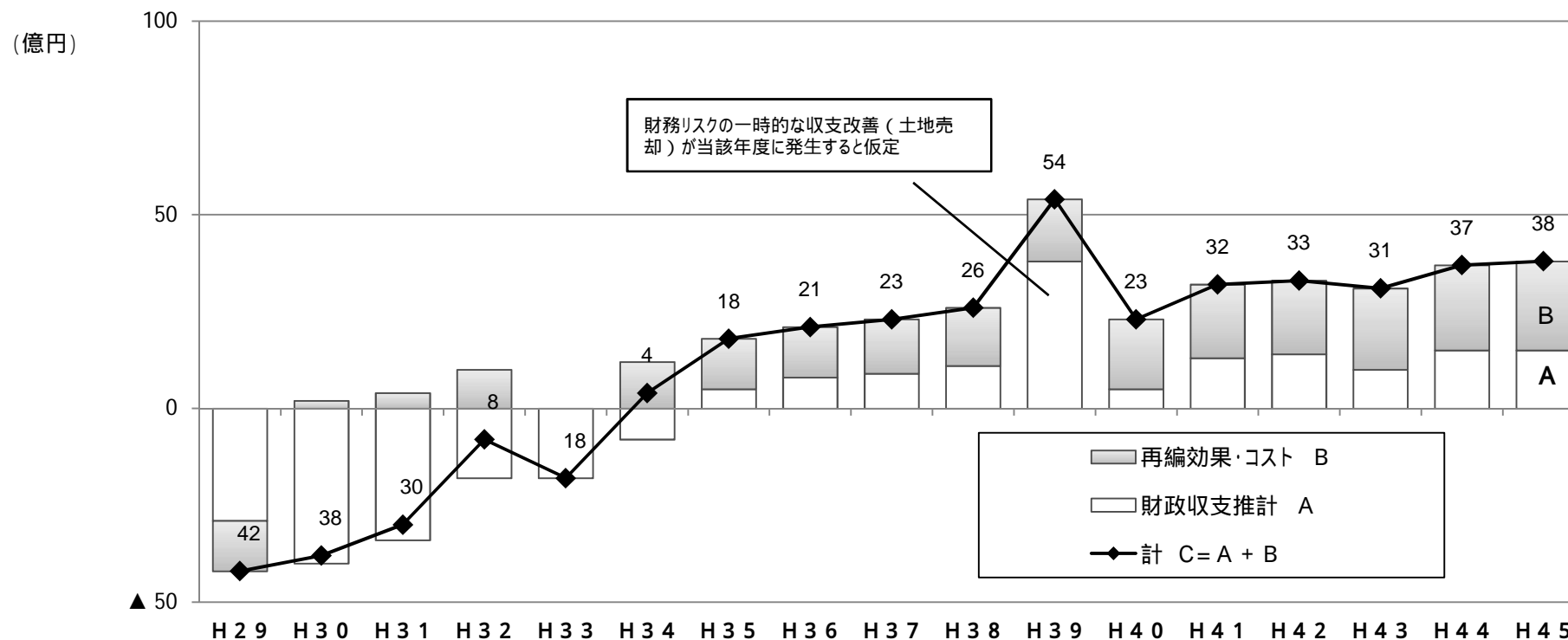


	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
収支不足対応額 D	42	38	30	6	6	1	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1
土地売却	18	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地方債の活用	4	4	4	4	3	1	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1
区承継財調基金の活用	20	16	26	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
府承継財調基金の貸付	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
府からの財政措置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
収支合計 E = C + D	0	0	0	0	0	6	17	19	20	22	50	21	30	33	31	37	36
特別区承継財調基金 + 財源活用可能額(累計)	60	44	18	16	13	19	36	55	75	97	147	168	198	231	262	299	335

特別区に承継した財政調整基金は約80億円

(2) 湾岸区 ATCを庁舎として活用した場合

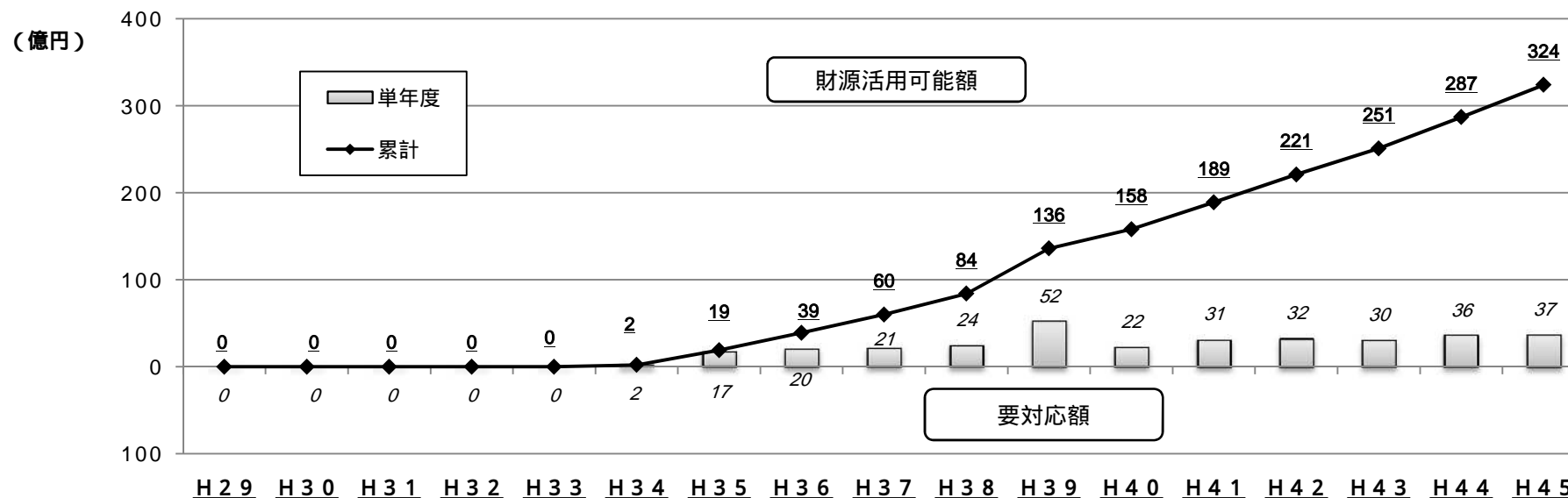
- ◆ H31年度まで約30億円を超える収支不足が続くが、H34年度には収支不足が解消
- ◆ H45年度の単年度収支では、約38億円のプラス 区役所庁舎を建設する場合と大きな差は見られない



	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
財政収支推計 A	29	40	34	18	18	8	5	8	9	11	38	5	13	14	10	15	15
再編効果・コスト B (その1)	13	2	4	10	0	12	13	13	14	15	16	18	19	19	21	22	23
計 C = A + B	42	38	30	8	18	4	18	21	23	26	54	23	32	33	31	37	38

財源対策後

- ◆ 収支不足に対しては、各年度とも財源対策により対応が可能
- ◆ H34年度には財源活用可能額が発生し、徐々に拡大してH45年度には約37億円となる。



	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
収支不足対応額 D	42	38	30	8	18	2	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1
土地売却	18	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地方債の活用	4	4	4	4	3	1	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1
区承継財調基金の活用	20	16	26	4	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
府承継財調基金の貸付	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
府からの財政措置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
収支合計 E = C + D	0	0	0	0	0	2	17	20	21	24	52	22	31	32	30	36	37
特別区承継財調基金 + 財源活用可能額(累計)	60	44	18	14	0	2	19	39	60	84	136	158	189	221	251	287	324

特別区に承継した財政調整基金は約80億円

(3) 東区

(3) 東区

財政収支推計（市「粗い試算」区分後）

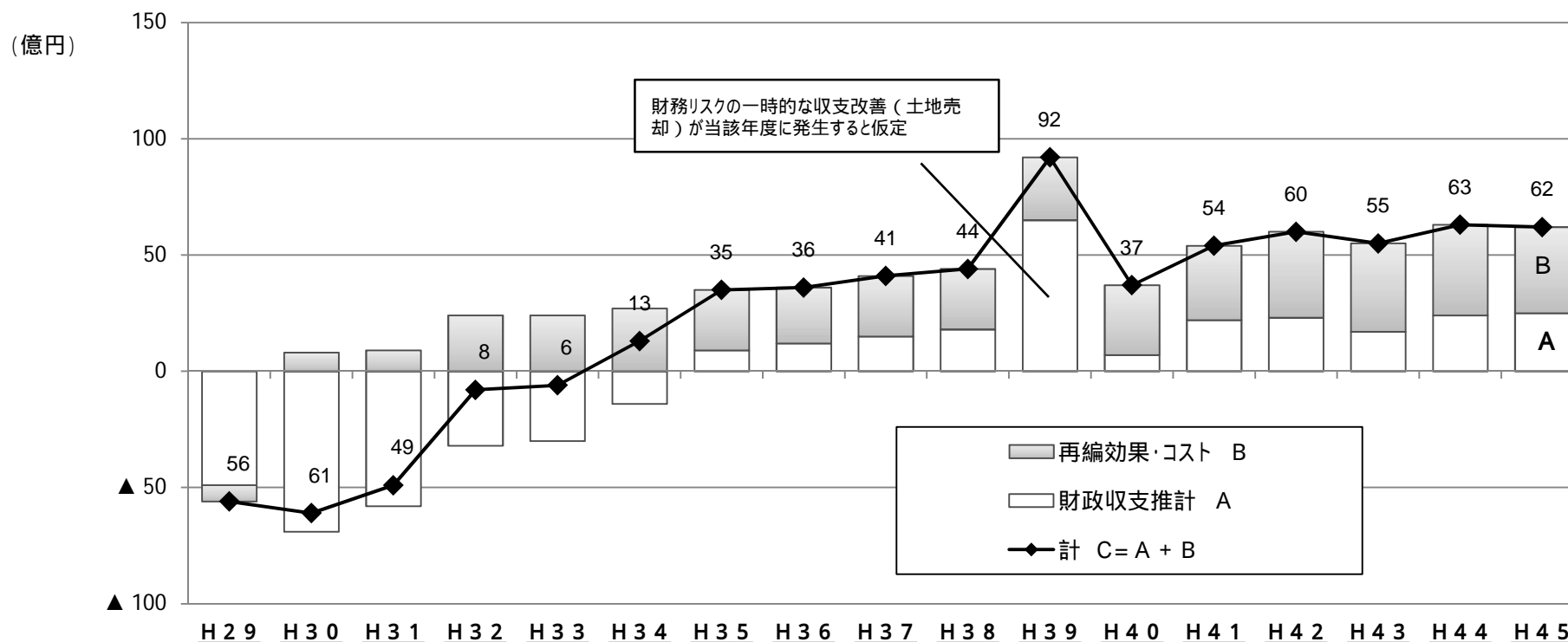
（億円）

	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6
歳出 ア	1,417	1,444	1,440	1,422	1,428	1,420	1,405	1,402
人件費	292	292	294	291	292	292	290	290
公債費・財務リスク	322	341	330	317	318	302	283	280
その他	803	811	816	814	818	826	832	832
歳入 イ	1,368	1,375	1,382	1,390	1,398	1,406	1,414	1,414
税、臨財債、譲与税等	515	509	503	506	515	525	534	534
財政調整交付金・目的税交付金	853	866	879	884	883	881	880	880
差引 イーア A	49	69	58	32	30	14	9	12

（億円）

	H 3 7	H 3 8	H 3 9	H 4 0	H 4 1	H 4 2	H 4 3	H 4 4	H 4 5
歳出 ア	1,399	1,396	1,349	1,407	1,392	1,391	1,397	1,390	1,389
人件費	290	290	290	290	290	290	290	290	290
公債費・財務リスク	277	274	227	285	270	269	275	268	267
その他	832	832	832	832	832	832	832	832	832
歳入 イ	1,414	1,414	1,414	1,414	1,414	1,414	1,414	1,414	1,414
税、臨財債、譲与税等	534	534	534	534	534	534	534	534	534
財政調整交付金・目的税交付金	880	880	880	880	880	880	880	880	880
差引 イーア A	15	18	65	7	22	23	17	24	25

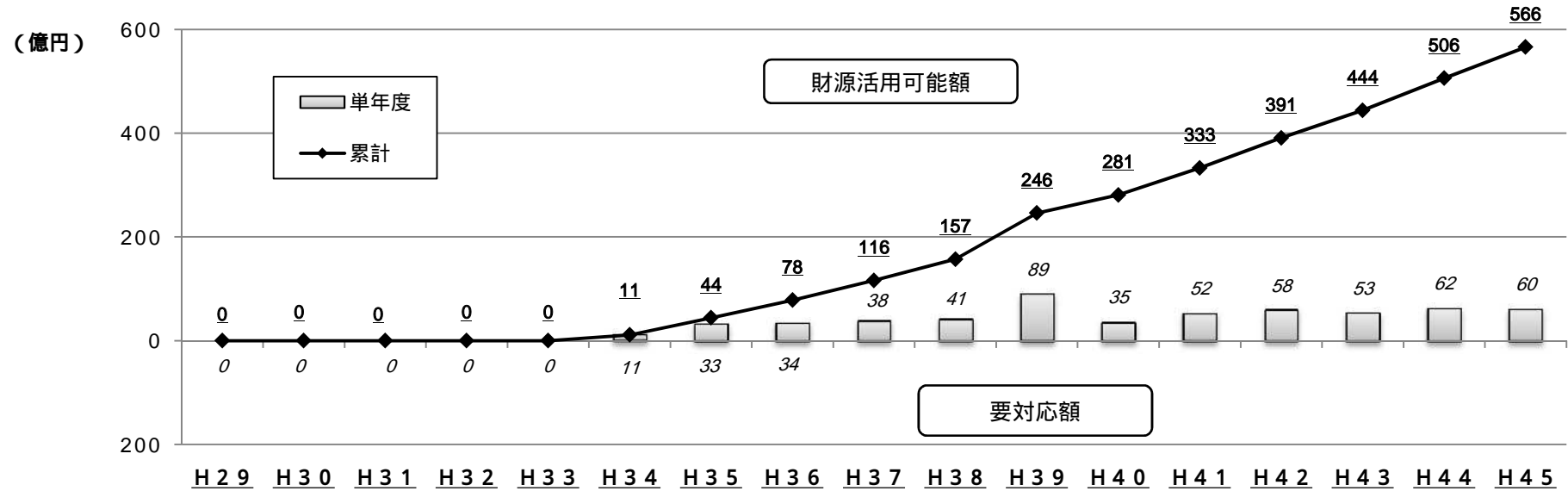
- ◆ H31年度まで約50億円を超える収支不足が続くが、H34年度には収支不足が解消
- ◆ H45年度の単年度収支では、約62億円のプラス



	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
財政収支推計 A	49	69	58	32	30	14	9	12	15	18	65	7	22	23	17	24	25
再編効果・コスト B (その1)	7	8	9	24	24	27	26	24	26	26	27	30	32	37	38	39	37
計 C = A + B	56	61	49	8	6	13	35	36	41	44	92	37	54	60	55	63	62

財源対策後

- ◆ 収支不足に対しては、各年度とも財源対策を講じることにより対応が可能
- ◆ H34年度には財源活用可能額が発生し、徐々に拡大してH45年度には約60億円となる



	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
収支不足対応額 D	56	61	49	8	6	2	2	2	3	3	3	2	2	2	2	1	2
土地売却	31	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地方債の活用	7	6	6	6	6	2	2	2	3	3	3	2	2	2	2	1	2
区承継財調基金の活用	18	24	43	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
府承継財調基金の貸付	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
府からの財政措置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
収支合計 E = C + D	0	0	0	0	0	11	33	34	38	41	89	35	52	58	53	62	60
特別区承継財調基金 + 財源活用可能額(累計)	117	93	50	48	48	59	92	126	164	205	294	329	381	439	492	554	614

特別区に承継した財政調整基金は約135億円

関西電力(株) 株式(出資財産分) 3,887,552株・約19億円【簿価】

(4) 南区

(4) 南区

財政収支推計(市「粗い試算」区分後)

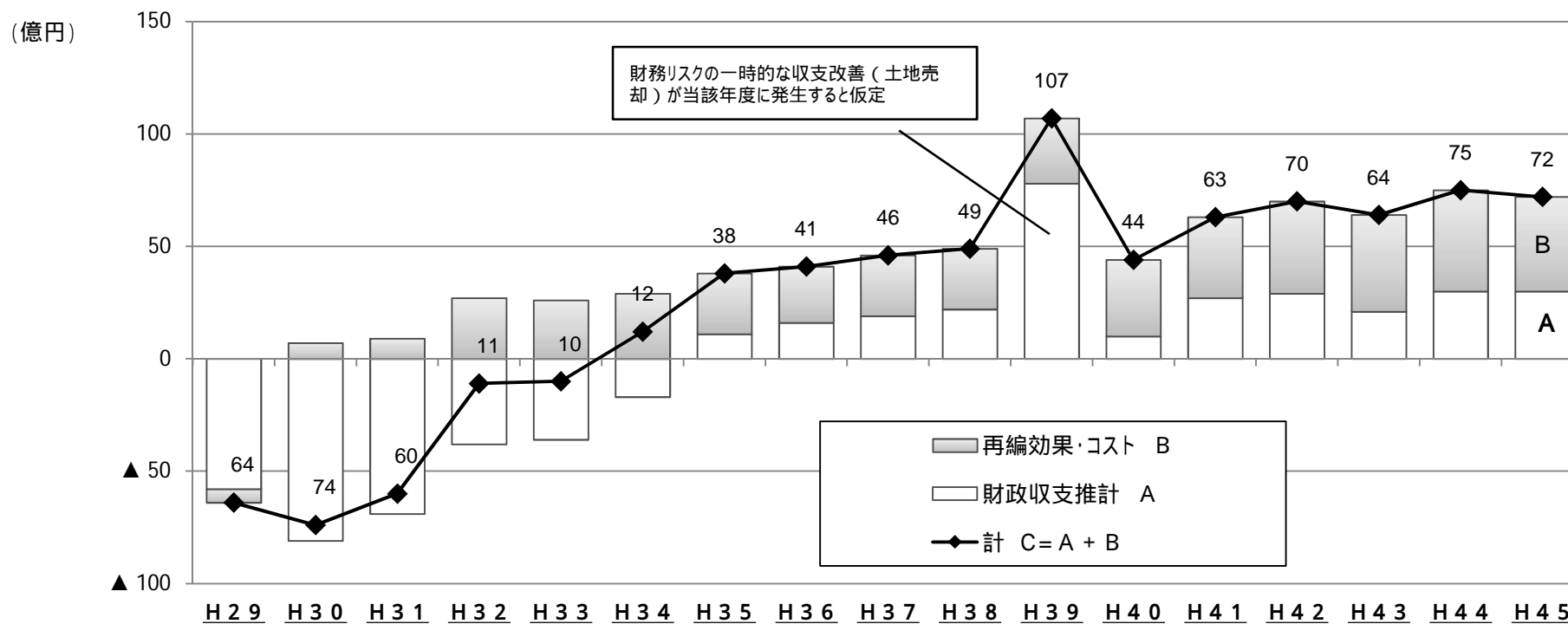
(億円)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
歳出 ア	1,751	1,783	1,780	1,758	1,766	1,756	1,739	1,734
人件費	353	353	355	351	353	353	350	350
公債費・財務リスク	383	405	393	377	378	358	337	332
その他	1,015	1,025	1,032	1,030	1,035	1,045	1,052	1,052
歳入 イ	1,693	1,702	1,711	1,720	1,730	1,739	1,750	1,750
税、臨財債、譲与税等	634	627	620	623	634	645	657	657
財政調整交付金・目的税交付金	1,059	1,075	1,091	1,097	1,096	1,094	1,093	1,093
差引 イーア A	58	81	69	38	36	17	11	16

(億円)

	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
歳出 ア	1,731	1,728	1,672	1,740	1,723	1,721	1,729	1,720	1,720
人件費	350	350	350	350	350	350	350	350	350
公債費・財務リスク	329	326	270	338	321	319	327	318	318
その他	1,052	1,052	1,052	1,052	1,052	1,052	1,052	1,052	1,052
歳入 イ	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750
税、臨財債、譲与税等	657	657	657	657	657	657	657	657	657
財政調整交付金・目的税交付金	1,093	1,093	1,093	1,093	1,093	1,093	1,093	1,093	1,093
差引 イーア A	19	22	78	10	27	29	21	30	30

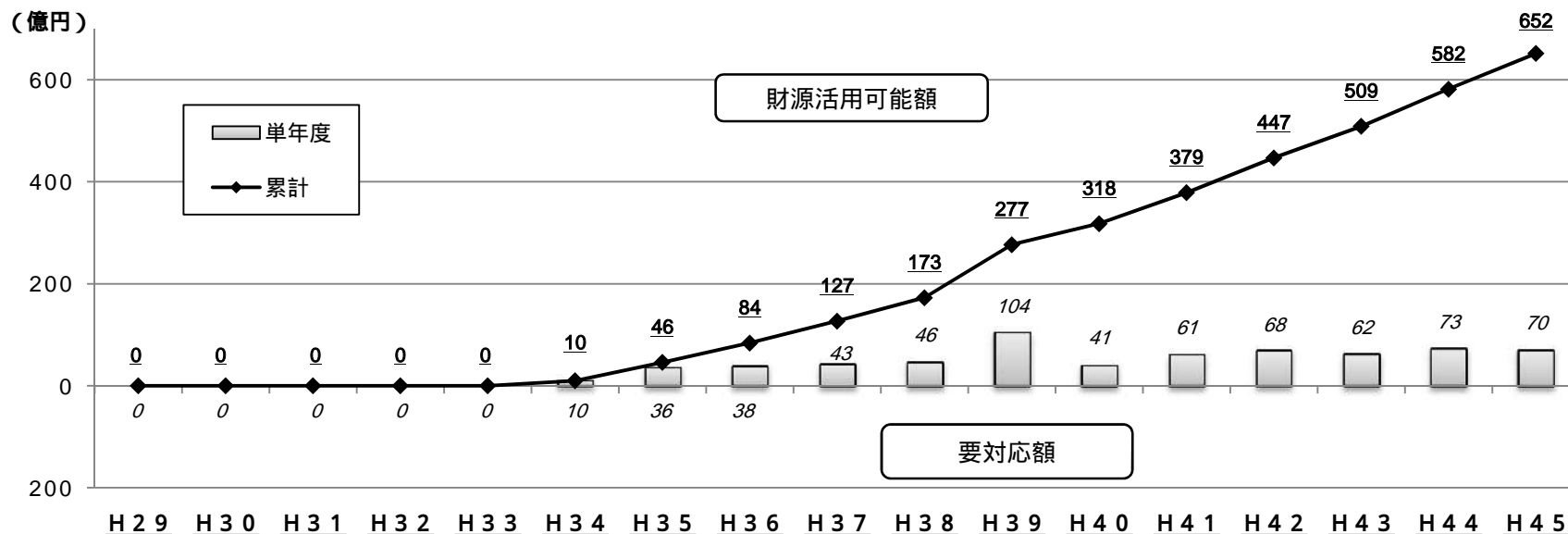
- ◆ H31年度まで約60億円を超える収支不足が続くが、H34年度には収支不足が解消
- ◆ H45年度の単年度収支では、約72億円のプラス



	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
財政収支推計 A	58	81	69	38	36	17	11	16	19	22	78	10	27	29	21	30	30
再編効果・コスト B (その1)	6	7	9	27	26	29	27	25	27	27	29	34	36	41	43	45	42
計 C = A + B	64	74	60	11	10	12	38	41	46	49	107	44	63	70	64	75	72

財源対策後

- ◆ 収支不足に対しては、各年度とも財源対策を講じることにより対応が可能
- ◆ H34年度には財源活用可能額が発生し、徐々に拡大してH45年度には約70億円となる



	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
収支不足対応額 D	64	74	60	11	10	2	2	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2
土地売却	36	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地方債の活用	8	8	8	7	7	2	2	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2
区承継財調基金の活用	20	30	52	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
府承継財調基金の貸付	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
府からの財政措置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
収支合計 E = C + D	0	0	0	0	0	10	36	38	43	46	104	41	61	68	62	73	70
特別区承継財調基金 + 財源活用可能額(累計)	141	111	59	55	52	62	98	136	179	225	329	370	431	499	561	634	704

特別区に承継した財政調整基金は約161億円

(5) 中央区

(5) 中央区

財政収支推計 (市「粗い試算」区分後)

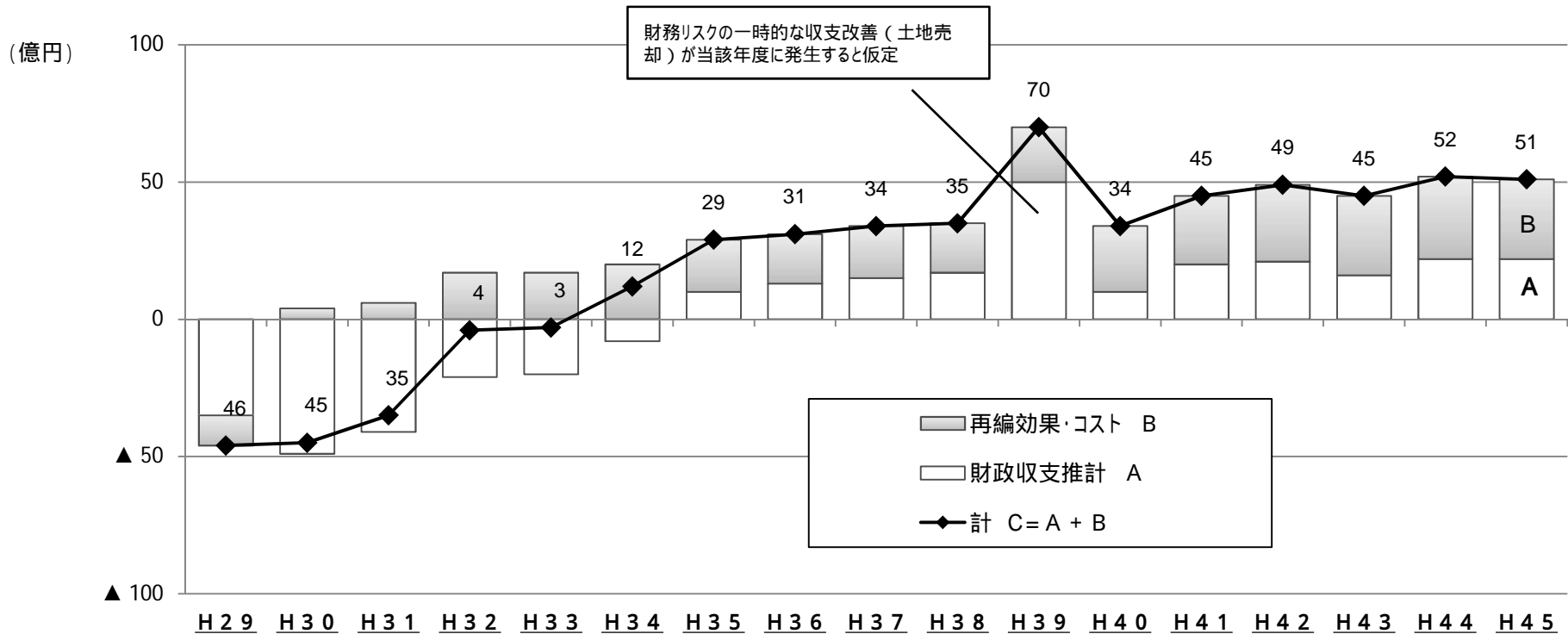
(億円)

	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6
歳出 ア	1,163	1,182	1,181	1,168	1,174	1,170	1,160	1,157
人件費	257	258	259	257	257	258	255	255
公債費・財務リスク	230	242	235	225	226	215	202	199
その他	676	682	687	686	691	697	703	703
歳入 イ	1,128	1,133	1,140	1,147	1,154	1,162	1,170	1,170
税、臨財債、譲与税等	539	537	537	542	551	562	572	572
財政調整交付金・目的税交付金	589	596	603	605	603	600	598	598
差引 イーア A	35	49	41	21	20	8	10	13

(億円)

	H 3 7	H 3 8	H 3 9	H 4 0	H 4 1	H 4 2	H 4 3	H 4 4	H 4 5
歳出 ア	1,155	1,153	1,120	1,160	1,150	1,149	1,154	1,148	1,148
人件費	255	255	255	255	255	255	255	255	255
公債費・財務リスク	197	195	162	202	192	191	196	190	190
その他	703	703	703	703	703	703	703	703	703
歳入 イ	1,170	1,170	1,170	1,170	1,170	1,170	1,170	1,170	1,170
税、臨財債、譲与税等	572	572	572	572	572	572	572	572	572
財政調整交付金・目的税交付金	598	598	598	598	598	598	598	598	598
差引 イーア A	15	17	50	10	20	21	16	22	22

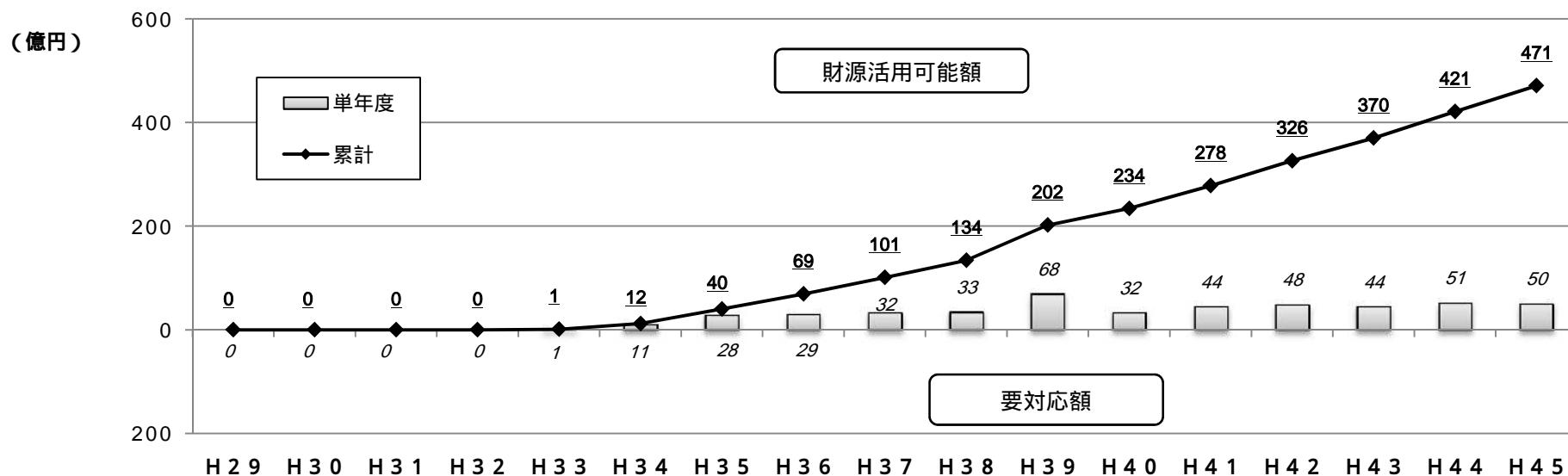
- ◆ H31年度まで約30億円を超える収支不足が続くが、H34年度には収支不足が解消
- ◆ H45年度の単年度収支では、約51億円のプラス



	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
財政収支推計 A	35	49	41	21	20	8	10	13	15	17	50	10	20	21	16	22	22
再編効果・コスト B (その1)	11	4	6	17	17	20	19	18	19	18	20	24	25	28	29	30	29
計 C = A + B	46	45	35	4	3	12	29	31	34	35	70	34	45	49	45	52	51

財源対策後

- ◆ 収支不足に対しては、各年度とも財源対策を講じることにより対応が可能
- ◆ H33年度には財源活用可能額が発生し、徐々に拡大してH45年度には約50億円となる



	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
収支不足対応額 D	46	45	35	4	4	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1
土地売却	22	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地方債の活用	5	5	5	4	4	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1
区承継財調基金の活用	19	18	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
府承継財調基金の貸付	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
府からの財政措置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
収支合計 E = C + D	0	0	0	0	1	11	28	29	32	33	68	32	44	48	44	51	50
特別区承継財調基金 + 財源活用可能額(累計)	77	59	29	29	30	41	69	98	130	163	231	263	307	355	399	450	500

特別区に承継した財政調整基金は約96億円

(6) 大阪府 [参考]

(6) 大阪府 [参考]

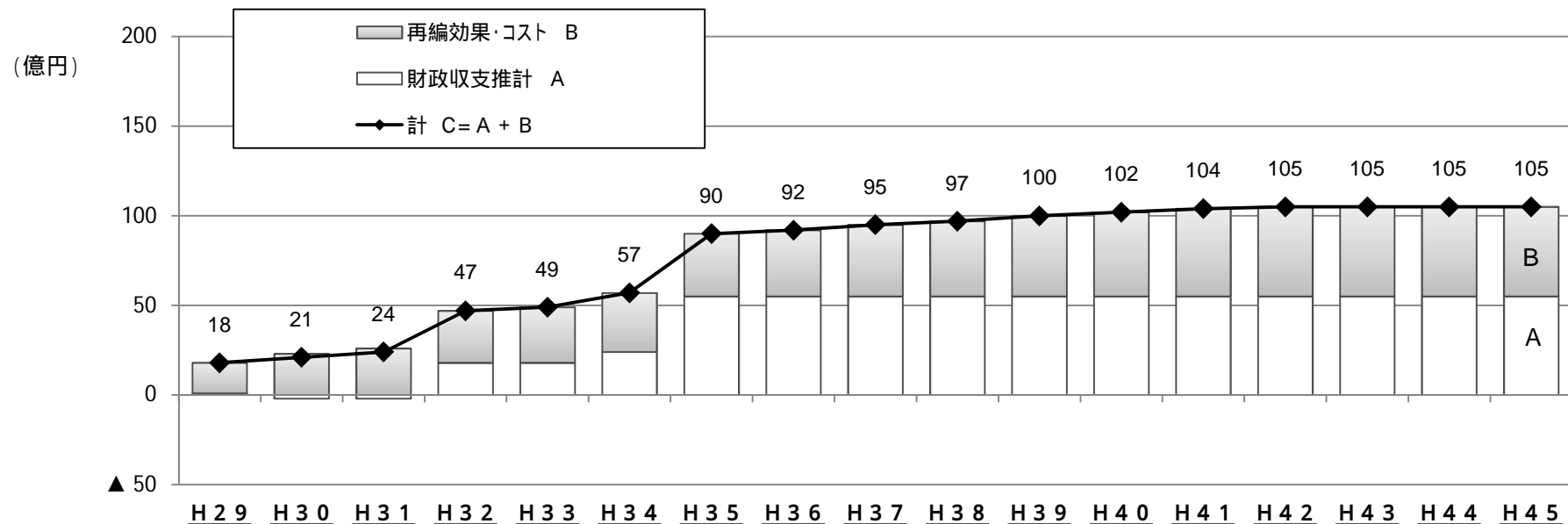
- ◆ 事業再編の効果などにより、制度移行初年度から約17億円の効果額が発現し、以降は徐々に拡大

【大阪府における再編効果の活用】

制度移行当初から財源活用可能額が生じるが、これらについては以下のような活用が考えられる

特別区の収支不足に活用する
大阪府での新規投資や移転事務の拡充に活用 など

現在の府の「粗い試算」
に影響は生じない



財政収支推計 A	1	2	2	18	18	24	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55
再編効果・コスト B (その1)	17	23	26	29	31	33	35	37	40	42	45	47	49	50	50	50	50
計 C = A + B	18	21	24	47	49	57	90	92	95	97	100	102	104	105	105	105	105

3 . 參考資料

(1) 推計の前提条件

[全体的事項]

- ▶ 協定書案における区割り、事務分担、職員体制、財政調整などの制度設計案を前提
- ▶ 推計の基礎となる大阪市の収支予測は、大阪市「今後の財政収支概算（粗い試算）」（平成26年4月版）を使用
H36年度以降の数值は、財務リスク分を除き、H35年度と同額と設定
- ▶ 使用している数值は現時点で精査中のものを含んでおり、今後の予算編成において変動する可能性がある

[歳入]

税・譲与税・ 税交付金等	<ul style="list-style-type: none"> • H29年度以降の税収等は、H26年度当初予算の各税目の構成比率で按分 • 市町村税のうち法人市町村民税・固定資産税・特別土地保有税・都市計画税・事業所税及び国有資産等所在市町村交付金・特別とん譲与税は、大阪府が賦課徴収し、又は交付・譲与をうける • 指定都市が行う国府道管理に対して交付される地方譲与税等は、事務移管に伴い大阪府に移転 • 個人市町村民税など税源の所在地が特定できる税、地方税法等に定める配分基準により交付すべき特別区が特定できる地方譲与税等は特別区ごとに算定し、その他の市町村たばこ税などは、従業員数や人口などで按分
地方交付税 (臨時財政対策債含む)	<ul style="list-style-type: none"> • 都区合算算定により、大阪府へ交付 • 特別区（市町村算定）分の算定については、特別区域を一の市とみなし、東京特別区と同様の補正係数等を適用して試算 • 大阪府へ事務移管する「国府道管理」や「病院」、「大学」などに係る基準財政需要額、国府道管理分に対して交付される地方譲与税・税交付金に係る基準財政収入額は大阪府に移し、それ以外は特別区分とする • 臨時財政対策債は、市町村算定分に係るものを各特別区の財政調整交付金算定上の財源不足額により按分し、各特別区がそれぞれ発行するものと設定
財政調整	<ul style="list-style-type: none"> • 法人市町村民税、固定資産税、特別土地保有税、地方交付税（臨時財政対策債を含む）をH24年度決算に基づく試算数值（大阪府23%、特別区分77%）で、大阪府と特別区へ配分 • 普通交付金と特別交付金の割合は、財政調整交付金総額の94%を普通交付金、6%を特別交付金と設定 • 各特別区の基準財政収入額は85%算入とし、生活保護費などの義務度が高いものは実態に応じて基準財政需要額に算入 • 特別交付金は制度移行後3年間を移行期間として収支差に配慮して配分し、移行期間後は、移行期間中の配分実績で配分すると設定
目的税交付金	<ul style="list-style-type: none"> • 目的税（都市計画税、事業所税）は、H24年度決算の数值（大阪府50%、特別区50%）で大阪府と特別区へ配分し、各特別区へはH22年国勢調査人口（以下「人口」）等により按分

[歳出]

共通	<ul style="list-style-type: none">特別区ごとの数値は、実額又は関連性が高いと思われる指標等で推計した各特別区のH24年度歳出決算により按分
人件費	<ul style="list-style-type: none">事務分担に基づき、大阪府と特別区に区分したH24年度決算の数値により算定 (一般廃棄物の一部事務組合化による影響は、特別区のみ反映)
扶助費	<ul style="list-style-type: none">原則特別区とするが、保育所運営費など府県の負担義務となるものは、大阪府にも区分
公債費	<ul style="list-style-type: none">事務分担に基づき、大阪府が3割を負担、特別区が7割を負担するものと設定特別区の負担分については、各特別区の人口で按分
特別会計 繰出金	<ul style="list-style-type: none">事務分担に基づき、「病院」「下水道」などは大阪府に、「介護」「国民健康保険」などは特別区に区分
財務リスク	<ul style="list-style-type: none">市の「粗い試算」で見込まれている項目について、事務分担に基づき特別区の負担とし、各特別区の人口で按分

[再編効果]

再編効果	<ul style="list-style-type: none">発現時期に応じて計上するが、市の「粗い試算」において既に算入されている効果については重複するため除外事務の移管先で発現する再編効果額については、移管先に帰属するものとして計上 (A B項目)各特別区の効果額は、人口による按分を基本とし、公営住宅については、市営住宅の戸数により按分 (職員体制の再編)各特別区の効果額は、各区の標準配置数案で按分することにより算定ただし、小中学校の技能労務職員の効果額については、区別の教職員現員数(H24年度)で按分
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〔再編コスト〕

再編コスト	<ul style="list-style-type: none">・ 組織配置人員数と事務分担に基づき、大阪府と特別区にそれぞれ計上・ 庁舎改修経費は、「北区」は庁舎改修、残りの特別区は不足分を庁舎建設と仮定（H33年3月末完成と仮定）したものに加え、「北区」は庁舎改修、「湾岸区」は不足分をATCビルを賃借・改修、残りの特別区は不足分を庁舎建設と仮定（H33年3月末完成と仮定）したものを設定し、配置職員数をもとに個別に算出・ その他のイニシャルコストについては、均等割りのほか、世帯数等の指標により按分・ 一時保護所を全特別区に設置（現在設置されている「南区」「中央区」を除く）するものとして、建設費等を算出・ 議員数及びこれにかかる経費は、法定協議会で決定された86人とし、現在の条例の報酬額3割減で算出・ その他のランニングコストについては、個別の積み上げのほか、人口等の指標により按分
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〔財源対策例〕

土地売却	<ul style="list-style-type: none">・ 「粗い試算」に参考として記されている不用地売却代（H27～30年度 560億円）を4年間で均等に売却するものと設定し、H29～30年度（各年度140億円）の売却益は、各特別区の人口により按分
財政調整基金の活用	<ul style="list-style-type: none">・ 特別区に承継される財政調整基金 約617億円（H26年度末残高 約1,575億円から大阪府承継分 約321億円、確定債務分約637億円を控除）は、各特別区の人口に応じて承継されるものとし、各特別区の財源不足に活用・ 大阪府に承継される財政調整基金 約321億円（H28年度末見込）は、各特別区の財源不足などの必要に応じて貸付を行い、各特別区で財源活用可能額が生じる年度にその1/2を償還するものと設定
地方債の活用	<ul style="list-style-type: none">・ 行革推進債等を活用（H29～33年度の5年間に各年度30億円を発行するものとし、各特別区の発行枠は人口に応じて設定）
大阪府からの財政措置	<ul style="list-style-type: none">・ 大阪府での発現効果を必要に応じて各特別区へ移転するものと設定

(2) 再編効果・再編コストの内訳 (北区)

財政推計での再編効果・再編コスト

(億円)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
再編効果	11	11	14	31	33	35	37	38	40	40	41	43	45	47	48	48	49
A B 項目	11	10	11	27	27	28	29	29	30	28	28	28	29	30	30	30	30
市政改革プランH27年度以降見込分	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
職員体制の再編	5	4	2	1	1	2	3	4	5	7	8	10	11	12	13	13	14
再編コスト	17	5	5	5	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
再編効果・再編コスト計	6	6	9	26	31	34	36	37	39	39	40	42	44	46	47	47	48

再編効果 (A B 項目) の内訳

(億円)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
継続的效果	11	10	11	27	27	28	29	29	30	28	28	28	29	30	30	30	30
一般廃棄物	2	2	2	18	18	19	19	19	19	17	17	18	18	19	19	19	19
弘済院	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
公営住宅	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
文化施設	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
こども青少年施設	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
ドーンセンター・クレオ大阪	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
障がい者交流促進センター・障がい者スポーツセンター	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
港湾	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地下鉄	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
バス	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
病院	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
産業技術総合研究所・工業研究所	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地方交付税の減額等	17	17	17	17	16	16	16	16	15	15	15	15	15	15	15	15	15
一時的効果	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A B 項目 計	11	10	11	27	27	28	29	29	30	28	28	28	29	30	30	30	30

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編効果（市政改革プランH27年度以降見込分）の内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
市民交流センター管理運営	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
委託老人福祉センター	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
子育て活動支援事業	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
スポーツセンター管理運営	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
（屋内）プール管理運営	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
教育相談事業	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
市政改革プランH27年度以降見込分 計	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編効果（職員体制の再編）の内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
人員削減の効果額	5	7	9	10	12	14	16	18	20	22	25	27	29	30	31	32	33
再任用活用による効果額	2	1	1	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
外部委託コスト	3	3	4	4	5	5	6	7	8	8	9	10	11	11	12	12	12
ABI項目と重複している効果額の減	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
「粗い試算」との重複効果を控除	6	5	5	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
職員体制の再編 計	5	4	2	1	1	2	3	4	5	7	8	10	11	12	13	13	14

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編コストの内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
イニシャルコスト	18	0.0	0.0	0.2	1	0.4	0.6	0.9	1	1	1	1	1	1	0.6	0.3	0.5
システム改修経費	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
庁舎改修経費	0	0	0	0.0	0.2	0.2	0.2	0.4	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.6	0.4	0.1	0.2
新庁舎建設経費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
移転経費	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一時保護所建設経費	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.2	0.1	0.1	0.2
その他	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1
ランニングコスト	0.4	5	5	5	0.7	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
システム運用経費	0	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
民間ビル賃借料	0	0	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
新庁舎維持管理等経費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
各特別区に新たに必要となる経費	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
再編コスト 計	17	5	5	5	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

(2) 再編効果・再編コストの内訳（湾岸区）

財政推計での再編効果・再編コスト

(億円)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
再編効果	4	5	7	16	17	19	20	21	22	22	23	25	26	26	27	28	29
A B項目	6	6	6	15	15	16	16	16	16	15	15	16	16	16	16	17	17
市政改革プランH27年度以降見込分	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
職員体制の再編	4	3	1	1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	8	9	9	10
再編コスト	17	3	3	4	5	4	7	9	9	9	9	8	8	6	5	5	7
再編効果・再編コスト計	13	2	4	12	12	15	13	12	13	13	14	17	18	20	22	23	22

再編効果（A B項目）の内訳

(億円)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
継続的効果	6	6	6	15	15	16	16	16	16	15	15	16	16	16	16	17	17
一般廃棄物	1	1	1	10	10	10	11	10	11	9	9	10	10	10	10	11	11
弘済院	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
公営住宅	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
文化施設	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
こども青少年施設	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
ドーンセンター・クレオ大阪	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
障がい者交流促進センター・障がい者スポーツセンター	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
港湾	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地下鉄	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
バス	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
病院	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
産業技術総合研究所・工業研究所	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地方交付税の減額等	9	9	9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8
一時的効果	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A B項目計	6	6	6	15	15	16	16	16	16	15	15	16	16	16	16	17	17

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編効果（市政改革プランH27年度以降見込分）の内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
市民交流センター管理運営	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
委託老人福祉センター	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
子育て活動支援事業	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
スポーツセンター管理運営	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
（屋内）プール管理運営	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
教育相談事業	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
市政改革プランH27年度以降見込分 計	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編効果（職員体制の再編）の内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
人員削減の効果額	3	5	6	7	8	10	11	12	14	15	17	18	20	21	21	22	23
再任用活用による効果額	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
外部委託コスト	2	2	3	3	3	4	4	5	5	6	6	7	7	8	8	8	8
AB項目と重複している効果額の減	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
「粗い試算」との重複効果を控除	4	4	3	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
職員体制の再編 計	4	3	1	1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	8	9	9	10

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編コストの内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
イニシャルコスト	17	0.4	0.4	1	4	3	6	8	8	8	8	7	7	4	3	3	5
システム改修経費	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
庁舎改修経費	0	0	0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1
新庁舎建設経費	0	0.4	0.4	1	3	3	5	7	7	7	7	6	6	4	3	3	5
移転経費	0	0	0	0	0.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一時保護所建設経費	0	0	0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.2
その他	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1
ランニングコスト	0.2	3	3	3	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2
システム運用経費	0	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
民間ビル賃借料	0	0	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
新庁舎維持管理等経費	0	0	0	0	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2
各特別区に新たに必要となる経費	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
再編コスト 計	17	3	3	4	5	4	7	9	9	9	9	8	8	6	5	5	7

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

(2) 再編効果・再編コストの内訳 (湾岸区 A T C を庁舎として活用した場合)

財政推計での再編効果・再編コスト

(億円)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
再編効果	4	5	7	16	17	19	20	21	22	22	23	25	26	26	27	28	29
A B 項目	6	6	6	15	15	16	16	16	16	15	15	16	16	16	16	17	17
市政改革プランH27年度以降見込分	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
職員体制の再編	4	3	1	1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	8	9	9	10
再編コスト	17	3	3	6	17	7	7	8	8	7	7	7	7	7	6	6	6
再編効果・再編コスト計	13	2	4	10	0	12	13	13	14	15	16	18	19	19	21	22	23

再編効果 (A B 項目) の内訳

(億円)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
継続的効果	6	6	6	15	15	16	16	16	16	15	15	16	16	16	16	17	17
一般廃棄物	1	1	1	10	10	10	11	10	11	9	9	10	10	10	10	11	11
弘済院	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
公営住宅	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
文化施設	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
こども青少年施設	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
ドーンセンター・クレオ大阪	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
障がい者交流促進センター・障がい者スポーツセンター	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
港湾	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地下鉄	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
バス	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
病院	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
産業技術総合研究所・工業研究所	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地方交付税の減額等	9	9	9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8
一時的効果	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A B 項目 計	6	6	6	15	15	16	16	16	16	15	15	16	16	16	16	17	17

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編効果（市政改革プランH27年度以降見込分）の内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
市民交流センター管理運営	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
委託老人福祉センター	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
子育て活動支援事業	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
スポーツセンター管理運営	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
（屋内）プール管理運営	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
教育相談事業	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
市政改革プランH27年度以降見込分 計	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編効果（職員体制の再編）の内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
人員削減の効果額	3	5	6	7	8	10	11	12	14	15	17	18	20	21	21	22	23
再任用活用による効果額	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
外部委託コスト	2	2	3	3	3	4	4	5	5	6	6	7	7	8	8	8	8
AB項目と重複している効果額の減	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
「粗い試算」との重複効果を控除	4	4	3	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
職員体制の再編 計	4	3	1	1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	8	9	9	10

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編コストの内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
イニシャルコスト	17	0.0	0.1	3	10	0.2	0.4	0.6	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.5	0.3	0.2	0.3
システム改修経費	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
庁舎改修経費	0	0	0.1	3	9	0.1	0.1	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1
新庁舎建設経費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
移転経費	0	0	0	0	0.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一時保護所建設経費	0	0	0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.2
その他	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1
ランニングコスト	0.2	3	3	3	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6
システム運用経費	0	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
民間ビル賃借料	0	0	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3
新庁舎維持管理等経費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
各特別区に新たに必要となる経費	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
再編コスト 計	17	3	3	6	17	7	7	8	8	7	7	7	7	7	6	6	6

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

(2) 再編効果・再編コストの内訳 (東区)

財政推計での再編効果・再編コスト

(億円)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
再編効果	10	12	13	29	31	33	35	36	38	38	39	41	43	45	45	46	47
A B 項目	10	10	10	25	25	26	27	27	27	26	26	26	27	28	28	28	28
市政改革プランH27年度以降見込分	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
職員体制の再編	5	3	2	1	1	2	3	4	6	7	8	10	11	12	12	13	14
再編コスト	17	4	4	5	7	6	9	12	12	12	12	11	11	8	7	7	10
再編効果・再編コスト計	7	8	9	24	24	27	26	24	26	26	27	30	32	37	38	39	37

再編効果 (A B 項目) の内訳

(億円)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
継続的効果	10	10	10	25	25	26	27	27	27	26	26	26	27	28	28	28	28
一般廃棄物	2	2	2	16	17	17	18	18	18	16	16	16	17	18	17	18	18
弘済院	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
公営住宅	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
文化施設	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
こども青少年施設	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
ドーンセンター・クレオ大阪	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
障がい者交流促進センター・障がい者スポーツセンター	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
港湾	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地下鉄	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
バス	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
病院	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
産業技術総合研究所・工業研究所	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地方交付税の減額等	16	16	16	15	15	15	15	15	14	14	14	14	14	14	14	14	14
一時的効果	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A B 項目 計	10	10	10	25	25	26	27	27	27	26	26	26	27	28	28	28	28

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編効果（市政改革プランH27年度以降見込分）の内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
市民交流センター管理運営	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
委託老人福祉センター	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
子育て活動支援事業	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
スポーツセンター管理運営	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
（屋内）プール管理運営	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
教育相談事業	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
市政改革プランH27年度以降見込分 計	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編効果（職員体制の再編）の内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
人員削減の効果額	5	6	8	10	12	14	15	17	19	21	24	26	28	29	30	31	32
再任用活用による効果額	2	1	1	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
外部委託コスト	2	3	4	4	5	5	6	7	7	8	9	10	11	11	11	12	12
AB項目と重複している効果額の減	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
「粗い試算」との重複効果を控除	6	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
職員体制の再編 計	5	3	2	1	1	2	3	4	6	7	8	10	11	12	12	13	14

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編コストの内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
イニシャルコスト	18	0.6	0.6	2	6	5	8	11	11	11	11	9	9	6	4	4	7
システム改修経費	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
庁舎改修経費	0	0	0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.1	0.1
新庁舎建設経費	0	0.6	0.6	2	4	4	7	10	10	10	10	8	8	5	4	4	7
移転経費	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一時保護所建設経費	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.2	0.1	0.1	0.2
その他	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1
ランニングコスト	0.4	4	4	4	2	1	1	1	1	2	2	2	2	2	3	3	3
システム運用経費	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
民間ビル賃借料	0	0	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
新庁舎維持管理等経費	0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3
各特別区に新たに必要となる経費	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
再編コスト 計	17	4	4	5	7	6	9	12	12	12	12	11	11	8	7	7	10

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

(2) 再編効果・再編コストの内訳 (南区)

財政推計での再編効果・再編コスト

(億円)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
再編効果	11	13	15	34	36	38	40	42	44	44	46	48	50	52	53	55	56
A B 項目	12	12	12	30	30	31	32	32	33	31	31	31	32	33	33	34	34
市政改革プランH27年度以降見込分	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
職員体制の再編	6	4	2	1	1	2	3	5	6	8	10	12	13	14	15	16	17
再編コスト	17	6	6	7	10	9	13	17	17	17	17	14	14	11	10	10	14
再編効果・再編コスト計	6	7	9	27	26	29	27	25	27	27	29	34	36	41	43	45	42

再編効果 (A B 項目) の内訳

(億円)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
継続的效果	12	12	12	30	30	31	32	32	33	31	31	31	32	33	33	34	34
一般廃棄物	2	2	2	19	20	21	21	21	21	19	19	19	20	21	21	21	21
弘済院	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
公営住宅	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
文化施設	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
こども青少年施設	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
ドーンセンター・クレオ大阪	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
障がい者交流促進センター・障がい者スポーツセンター	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
港湾	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地下鉄	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
バス	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
病院	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
産業技術総合研究所・工業研究所	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地方交付税の減額等	19	19	19	18	18	18	18	17	17	17	17	17	17	16	16	16	16
一時的効果	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A B 項目 計	12	12	12	30	30	31	32	32	33	31	31	31	32	33	33	34	34

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編効果（市政改革プランH27年度以降見込分）の内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
市民交流センター管理運営	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
委託老人福祉センター	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
子育て活動支援事業	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
スポーツセンター管理運営	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
（屋内）プール管理運営	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
教育相談事業	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
市政改革プランH27年度以降見込分 計	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編効果（職員体制の再編）の内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
人員削減の効果額	6	8	10	11	14	16	18	20	23	25	28	31	33	35	36	37	38
再任用活用による効果額	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
外部委託コスト	3	4	4	5	6	6	7	8	9	10	11	12	13	13	14	14	14
ABI項目と重複している効果額の減	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
「粗い試算」との重複効果を控除	7	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
職員体制の再編 計	6	4	2	1	1	2	3	5	6	8	10	12	13	14	15	16	17

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編コストの内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
イニシャルコスト	18	1	1	2	8	7	11	15	15	15	15	12	12	8	6	6	10
システム改修経費	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
庁舎改修経費	0	0	0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.3	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.3	0.1	0.1
新庁舎建設経費	0	0.9	1	2	7	7	10	14	14	14	14	11	11	7	6	6	10
移転経費	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一時保護所建設経費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
ランニングコスト	0.5	5	5	5	3	2	2	2	2	3	3	3	3	3	4	4	4
システム運用経費	0	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
民間ビル賃借料	0	0	0	0	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
新庁舎維持管理等経費	0	0	0	0	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	4	4	4
各特別区に新たに必要となる経費	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
再編コスト 計	17	6	6	7	10	9	13	17	17	17	17	14	14	11	10	10	14

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

(2) 再編効果・再編コストの内訳(中央区)

財政推計での再編効果・再編コスト

(億円)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
再編効果	6	7	9	21	22	24	25	26	27	27	29	31	32	33	34	35	36
A B項目	7	7	7	18	18	19	19	19	19	18	18	19	19	20	20	20	20
市政改革プランH27年度以降見込分	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
職員体制の再編	5	4	2	1	0	1	2	3	4	5	7	8	9	9	10	11	12
再編コスト	17	3	3	4	5	4	6	8	8	9	9	7	7	5	5	5	7
再編効果・再編コスト計	11	4	6	17	17	20	19	18	19	18	20	24	25	28	29	30	29

再編効果(A B項目)の内訳

(億円)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
継続的効果	7	7	7	18	18	19	19	19	19	18	18	19	19	20	20	20	20
一般廃棄物	1	1	1	12	12	12	13	13	13	11	11	12	12	12	12	13	13
弘済院	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
公営住宅	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
文化施設	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
こども青少年施設	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
ドーンセンター・クレオ大阪	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
障がい者交流促進センター・障がい者スポーツセンター	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
港湾	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地下鉄	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
バス	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
病院	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
産業技術総合研究所・工業研究所	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地方交付税の減額等	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
一時的効果	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A B項目 計	7	7	7	18	18	19	19	19	19	18	18	19	19	20	20	20	20

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編効果（市政改革プランH27年度以降見込分）の内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
市民交流センター管理運営	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
委託老人福祉センター	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
子育て活動支援事業	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
スポーツセンター管理運営	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
（屋内）プール管理運営	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
教育相談事業	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
市政改革プランH27年度以降見込分 計	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編効果（職員体制の再編）の内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
人員削減の効果額	4	5	7	8	10	12	13	15	16	18	20	22	24	25	26	27	28
再任用活用による効果額	2	1	1	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
外部委託コスト	2	3	3	3	4	4	5	6	6	7	8	8	9	9	10	10	10
ABI項目と重複している効果額の減	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
「粗い試算」との重複効果を控除	5	5	4	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
職員体制の再編 計	5	4	2	1	0	1	2	3	4	5	7	8	9	9	10	11	12

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編コストの内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
イニシャルコスト	18	0.7	0.7	1	5	4	6	8	9	9	8	6	6	4	4	4	6
システム改修経費	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
庁舎改修経費	0	0	0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.3	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.3	0.1	0.1
新庁舎建設経費	0	0.7	0.7	1	4	4	6	8	8	8	8	6	6	4	4	4	6
移転経費	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一時保護所建設経費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1
ランニングコスト	0.2	3	3	3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.8	0.8	0.8
システム運用経費	0	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
民間ビル賃借料	0	0	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
新庁舎維持管理等経費	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2
各特別区に新たに必要となる経費	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
再編コスト 計	17	3	3	4	5	4	6	8	8	9	9	7	7	5	5	5	7

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

(2) 再編効果・再編コストの内訳 (大阪府 参考)

47

財政推計での再編効果・再編コスト

(億円)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
再編効果	23	29	32	35	37	39	41	43	46	48	51	53	55	56	56	56	56
A B項目	13	16	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
職員体制の再編	10	13	15	17	19	21	23	25	28	30	33	35	37	38	38	38	38
再編コスト	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
再編効果・再編コスト計	17	23	26	29	31	33	35	37	40	42	45	47	49	50	50	50	50

再編効果 (A B項目) の内訳

(億円)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
継続的效果	13	16	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
文化施設	0.3	0.4	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
公衆衛生研究所・環境科学研究所	0	0	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
港湾	0	0	0	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
地下鉄	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
病院	4	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
産業技術総合研究所・工業研究所	0.1	0.1	0.1	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
保健医療財団・環境保健協会	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
地方交付税の減額等	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
一時的効果	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A B項目 計	13	16	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編効果（職員体制の再編）の内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
人員削減の効果額	14	17	20	23	27	30	33	37	41	45	49	53	57	58	58	58	58
再任用活用による効果額	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
外部委託コスト	0	1	2	4	5	6	8	9	10	12	14	15	17	17	17	17	17
ABI項目と重複している効果額の減	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
「粗い試算」との重複効果を控除	5	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
職員体制の再編 計	10	13	15	17	19	21	23	25	28	30	33	35	37	38	38	38	38

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

再編コストの内訳

（億円）

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
イニシャルコスト	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
システム改修経費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
庁舎改修経費	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
新庁舎建設経費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
移転経費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一時保護所建設経費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ランニングコスト	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
システム運用経費	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
民間ビル賃借料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新庁舎維持管理等経費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
各特別区に新たに必要となる経費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
再編コスト 計	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

端数処理の関係上、内訳の計と合計が一致しない場合がある

(3) 再編効果・再編コストについて (AB項目等)

〔試算の基本的考え方〕

パッケージ案における効果見込額（一般財源ベース）をもとに、現時点で確認できる数値を用いて年次推計を試算

（AB項目の効果見込額の精査）

- 取組みの進展や方向性の変更等をふまえて、必要な項目については効果額を精査（弘済院附属病院の運営形態の方向性変更、下水道の運転維持管理業務の包括委託の実施、府市病院の経営改善の取組みなど）
- その他の項目については、これまでの効果見込額を使用

（市「粗い試算」との整合）

- 市の「粗い試算」に既に織り込まれている下記の削減等の効果額を控除
 - ・ AB項目の効果見込額のうち、H25年度予算及びH26年度予算として反映されているもの
 - ・ 市政改革プラン関係（施策・事業の見直し・再構築等）のうち、H25年度予算及びH26年度予算として反映されているもの

（地方交付税等への影響）

- 地下鉄民営化による市税・府税の増収に伴う地方交付税の減額、一般会計への分担金収入の減額等を控除

（効果額の配分）

- 特別区と大阪府の効果額の配分については、事務分担をふまえて区分（事務の移管先で発現する効果は、移管先に帰属するものとして算定）
- 各特別区の効果額は、人口（H22年国勢調査）で按分（ただし、公営住宅については、市営住宅戸数（H25年3月時点）で按分）

〔財政推計算入効果額の試算 (継続的效果) 〕

〔効果見込額 (一般財源ベース) 〕

580億円
AB項目関連 *1
358億円 + 17億円 = 375億円
(効果額精査による増減)
市政改革プラン関係 237億円
上記の重複分 32億円

*1 AB項目以外の府市連携の取組みを含む

244億円
(H45年度時点)
AB項目関連 190億円
市政改革プラン関係 54億円

〔財政推計算入効果額〕

168億円
(H45年度時点)
AB項目関連 147億円
市政改革プラン関係 21億円

事務分担をもとに配分

特別区
AB項目関連
129億円
市政改革プラン関係
21億円

大阪府
AB項目関連
18億円

H25年度発現
効果等を控除

粗い試算反映済み
270億円
AB項目関連 119億円
市政改革プラン関係 183億円
上記の重複分 32億円

交付税等の減額分 *2
66億円 (AB項目関連)

H26年度発現
効果等を控除

粗い試算反映済み
70億円
AB項目関連 37億円
市政改革プラン関係 33億円

交付税等の減額分
6億円 (AB項目関連)

*2 税収増に伴う地方交付税の減額、分担金収入の減額等

効果見込額と財政推計算入効果額の関係

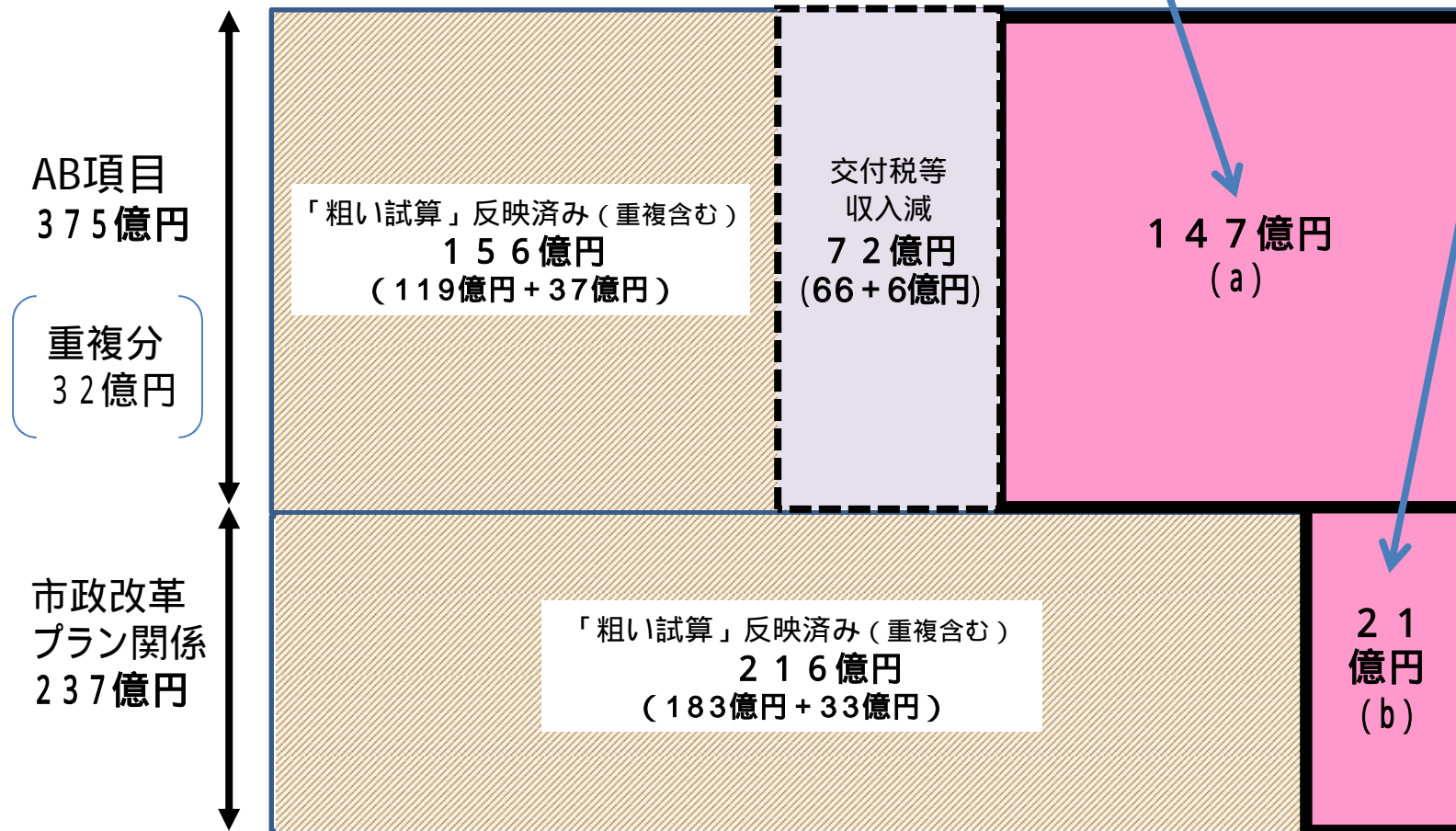
精査後の効果見込額

継続的效果(一般財源)

580億円

財政推計算入効果額 (H45年度時点)

168億円 = (a) 147億円 + (b) 21億円



AB項目の財政推計への算入効果額 (項目別)

項目	効果見込額 (一般財源) 【百万円】	効果見込額の増減要因
----	--------------------------	------------

財政推計算入効果額 【百万円】		財政推計算入時の控除の考え方
--------------------	--	----------------

(継続の効果)

一般廃棄物	焼却処理	2,800	
	収集輸送	7,900	
消 防		47	* (府・市) H26年度予算(市運営費削減、府車両維持管理費等削減)を反映(+39百万円)
弘済院		358	* 附属病院の運営形態の方向性変更を反映(-511百万円)
公営住宅		553	
文化施設		224	* (市) 収支シミュレーションの精査を反映(+106百万円)
公衆衛生研究所 環境科学研究所		92	* (市) 環境分野の業務整理の方向性変更を反映(-56百万円)
府立大型児童館ビッグバン キッズプラザ大阪		36	* (市) H26年度予算(補助金削減)を反映(+24百万円)
こども青少年施設		131	
障がい者交流促進センター 障がい者スポーツセンター		71	
ドーンセンター クレオ大阪		201	
港 湾		218	
下水道		223	* H26年度予算(運転維持管理業務の包括委託の実施)を反映(-115百万円)
市 場			

1,477	大阪府 特別区	1,477	* (市)「粗い試算」に反映されているためH27年度までの効果見込額を控除(1,323百万円)
6,700	大阪府 特別区	6,700	* H25年度予算反映分を控除(1,200百万円)
	大阪府 特別区		* H26年度予算反映分を控除(47百万円)
160	大阪府 特別区	160	* H25年度予算反映分を控除(198百万円)
155	大阪府 特別区	155	* H25年度予算反映分を控除(398百万円)
128	大阪府 特別区	57 71	* H25・26年度予算反映分を控除(96百万円)
16	大阪府 特別区	16	* H25・26年度予算反映分を控除(76百万円)
	大阪府 特別区		* H25・26年度予算反映分を控除(36百万円)
47	大阪府 特別区	47	* H26年度予算反映分を控除(84百万円)
9	大阪府 特別区	9	* H25年度予算反映分を控除(62百万円)
158	大阪府 特別区	158	* H26年度予算反映分を控除(43百万円)
54	大阪府 特別区	38 16	* H25・26年度予算反映分を控除(164百万円)
	大阪府 特別区		* H25・26年度予算反映分を控除(223百万円)
	大阪府 特別区		

「効果見込額」の欄中、「」は一般財源の効果額が算定されていないもの

項目	効果見込額 (一般財源) 【百万円】	効果見込額の増減要因
----	--------------------------	------------

地下鉄	16,500	
バス	1,300	
水道		
病院	5,026	* (府) H26年度予算(運営費負担金削減)を反映(+581百万円) * (市) 独法化に伴う経営改善の取組みを反映(+1,597百万円)
大学	1,390	
産業技術総合研究所 工業研究所	76	
信用保証協会		
国際交流財団 国際交流センター		
保健医療財団 環境保健協会	239	
堺泉北埠頭(株) 大阪港埠頭(株)		
産業振興機構 都市型産業振興センター		

「効果見込額」の欄中、「」は一般財源の効果額が算定されていないもの

継続的效果(計)	37,385
----------	--------

財政推計算入効果額 【百万円】		財政推計算入時の控除の考え方
--------------------	--	----------------

10,600	大阪府	1,900	* H25・26年度予算反映分を控除(5,900百万円)
	特別区	8,700	
290	大阪府		* H25・26年度予算反映分を控除(1,010百万円)
	特別区	290	
1,982	大阪府	670	* H25・26年度予算反映分を控除(3,044百万円)
	特別区	1,312	
76	大阪府		* (府)「粗い試算」に反映されているためH28年度までの効果見込額を控除(1,040百万円) * (市) H25年度予算反映分を控除(350百万円)
	特別区	10	
28	大阪府	28	* H25・26年度予算反映分を控除(211百万円)
	特別区		
	大阪府		
	特別区		

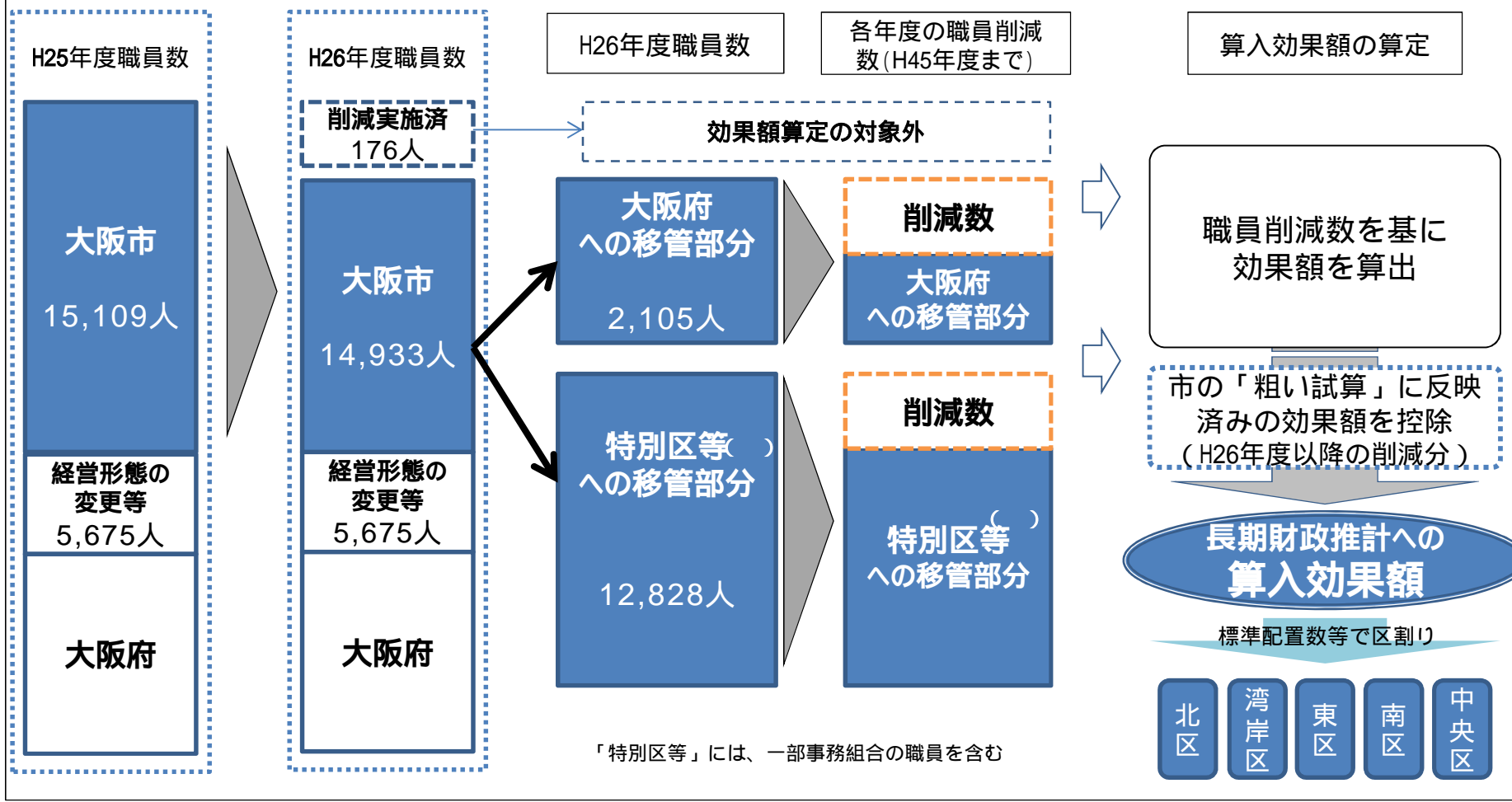
(計)		21,880
	(大阪府)	2,775
* 税収増に伴う地方交付税の減額、分担金収入の減額等	(特別区)	19,105
	(大阪府)	1,000
算入効果額 (継続的效果)	(特別区)	6,167
		14,713
	(大阪府)	1,775
	(特別区)	12,938

試算の基本的考え方

現大阪市部分を対象として、大阪府と特別区等への移管部分に分割したうえで、職員数削減による効果を算出
 (現在の府の「粗い試算」に影響は生じない)
 H45年度までの削減効果額を年度ごとに算出し、市の「粗い試算」で見込んでいる職員数削減による効果を控除
 効果額を標準配置数等の比率により、各特別区に分割

算入効果額の試算

現大阪市部分を対象に試算
 (経営形態の変更等を除く)



【職員数の推移】

	H26年度 職員数	H45年度 職員数	削減数 (H45 - H26)
大阪府移管分	2,105人	1,381人	724人
特別区等	12,828人	10,892人	1,936人

【算入効果額の試算】

(H45年度時点)

効果額の算出	長期財政推計への算入効果額
43億円	38億円
98億円	67億円
(区別) 北区 14億円 湾岸区 10億円 東区 14億円 南区 17億円 中央区 12億円	

市の「粗い試算」
に反映済みの
効果額を控除

府移管 : 5億円
特別区等 : 31億円

市の「粗い試算」では、政令等会計の対象職員数を含まない

市の「粗い試算」	職員数	削減数	効果額
市の「粗い試算」	12,872人	415人	36億円

端数処理の関係で差し引きが
合わない場合がある

試算の前提

(再試算後のパッケージ案による効果額を年次推移により算定)

- パッケージ案の再試算（設置の日の変更等を反映）を基に、各年度の職員削減数により効果額を試算
算定単価はパッケージ案と同様
年次推移において定年・早期退職者の発生率（府・市の職員数管理目標の数値）を適用
- 設置当初の事務職員等の不足への対応（再試算後）

パッケージ案
(不足数) 535人

再試算
198人

対応案
技能労務職員の転任 80人
新規採用の増等 118人

不足数は全て特別区側で生じるものと仮定して効果額を試算

(3) 再編効果・再編コストについて (再編コスト)

湾岸・東・南・中央区:新庁舎建設想定

(単位:億円)

	項目	再試算案	再試算の考え方
イニシャルコスト	システム改修経費	約150	消費税の反映、時点見直し
	庁舎改修経費 新庁舎建設経費	497	消費税の反映、職員数の反映、民間ビル使用からの見直し [新庁舎建設費・用地費、既存庁舎改修費]
	移転経費	5	消費税の反映、職員数の反映 [職員移転・職員パソコン等設置費]
	一時保護所建設 経費	12	全特別区に一時保護所を設置
	その他	9	消費税の反映、時点見直し [街区表示板、広報関係、看板・表示、備品・消耗品等]
	合計	約680	
ランニングコスト	システム運用経費	約25	消費税の反映、時点見直し
	民間ビル等賃借料	20	消費税の反映、時点見直し[既存民間ビル庁舎の廃止]
	新庁舎維持管理等 経費	10	[建物や設備機器の修繕・更新、保守点検費、解体費など] (年度間の平均)
	各特別区に新たに 必要となる経費	2	消費税の反映、時点見直し、議員数の反映 [議員報酬、政務活動費、各種行政委員会委員報酬費]
	合計	約15	

湾岸区:ATCビル賃借、東・南・中央区:新庁舎建設想定

(単位:億円)

	項目	再試算案	再試算の考え方
イニシャルコスト	システム改修経費	約150	消費税の反映、時点見直し
	庁舎改修経費 新庁舎建設経費	424	消費税の反映、職員数の反映、民間ビル使用からの見直し [新庁舎建設費・用地費、既存庁舎改修費]
	移転経費	5	消費税の反映、職員数の反映 [職員移転・職員パソコン等設置費]
	一時保護所建設経費	12	全特別区に一時保護所を設置
	その他	9	消費税の反映、時点見直し [街区表示板、広報関係、看板・表示、備品・消耗品等]
	合計	約600	
ランニングコスト	システム運用経費	約25	消費税の反映、時点見直し
	民間ビル等賃借料	14	消費税の反映、時点見直し[既存民間ビル庁舎の廃止]
	新庁舎維持管理等経費	8	[建物や設備機器の修繕・更新、保守点検費、解体費など] (年度間の平均)
	各特別区に新たに必要となる経費	2	消費税の反映、時点見直し、議員数の反映 [議員報酬、政務活動費、各種行政委員会委員報酬費]
	合計	約20	